

試験研究成果普及情報

部門	果樹	対象	普及
課題名: みかん狩りに適した新しい晩生カンキツの品種と安定生産技術の確立			
[要約] 成熟期の異なる「はるみ」、「あまか」、「不知火」、「清見」、「津之香」を屋根掛け栽培することにより、外観がきれいで食べやすく、食味の良い果実が1～5月までの観光需要に対応して連続的に供給できる。			
キーワード(専門区分)栽培 (研究対象)果樹類—他のカンキツ類 (フリーキーワード) 晩生カンキツ、品種比較、雨除け、粘質土、黒ボク土、観光農業			
実施機関名(主査) 農業総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹研究室 (協力機関) 農業総合研究センター 暖地園芸研究所 環境研究室 (実施期間) 1998年度～2001年度			

[目的及び背景]

南房総地域では観光農業が盛んになっているが、農業振興の一環としてこれをさらに発展させるため、年末～5月の観光シーズンに、国が新しく育成した良食味の晩生カンキツ類を導入することが期待されている。導入に当たって、これら品種の栽培特性や収量性、果実品質を明らかにして、本県の観光果樹園あるいは直売などに適した品種の選定と、その栽培技術を確立する。

[成果内容]

1. 「はるみ」、「あまか」、「不知火」、「清見」、「津之香」の5品種は、いずれも香り豊かで、果皮がむきやすく種子がほとんどなく、じょうのう膜が薄く柔らかいので食べやすい。肉質は柔軟多汁で、糖、酸ともに高く食味は良好であった。
2. 収穫時期は、「はるみ」が1月、「あまか」が1～2月、「不知火」が2～3月、「清見」と「津之香」が3～4月であった。したがって、これらの品種を組合わせて栽培することにより、1～5月の観光需要に対応して連続供給できる(表1)。
3. 樹体や果実を寒害や病害、鳥獣害から守り、品質の良い果実を生産するためには屋根掛けによる施設栽培が有利であった(図1、図2)。
4. 土壌については、樹勢の弱い品種では粘質土よりも黒ボク土の方が初期生育の点で優れ、果実品質の点では粘質土の方が優れる傾向があった(図3、4)。

[留意事項]

1. 露地の場合、園地は冷気が停滞せず、寒風の当たらない温暖な場所が良い。また、防風、防寒対策を徹底する。
2. ウンシュウミカンに比べ樹勢の弱い品種が多いので、有機物投入による土壌改善やマルチ、かん水による乾燥防止などを行って根の生長を促進し、樹勢の維持、強化を図る。
3. 生育不良や樹勢低下には、尿素等を葉面散布で養分補給して根群を活性化し、樹勢回復を図る。
4. 着果過多は樹勢の低下と隔年結果を引き起こすので、着果程度の適正化に心がける。

[普及対象地域] 県内ミカン栽培地域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

表1 晩生カンキツ類の収穫期間と観光果樹に適した品種構成モデル

品 種	12 月			1 月			2 月			3 月			4 月			5 月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
○ は る み																		
○ あ ま か																		
○ せ と か																		
○ ぶ ち ま る																		
○ 陽 香																		
○ 清 峰																		
○ 不 知 火																		
○ 清 見																		
○ 津 之 香																		
○ 朱 見																		
○ 川 野 夏 柑																		

注) ○印は推奨品種. その他は栽培可能な品種. ———: 収穫期間

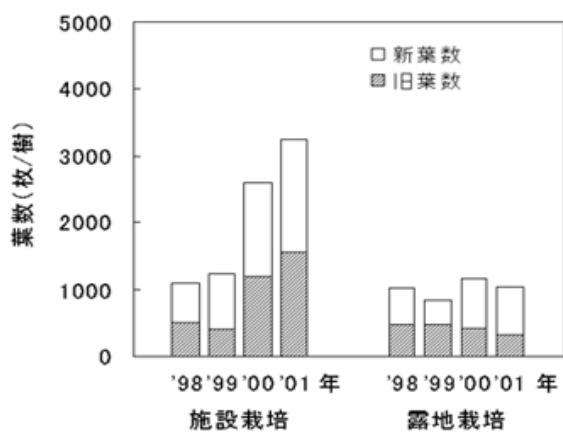


図1 施設及び露地栽培における「不知火」の1樹当り葉数の推移

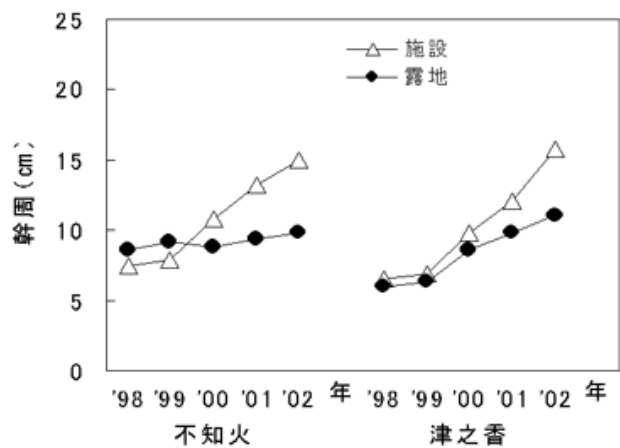


図2 施設及び露地栽培における「不知火」と「津之香」の幹周の推移

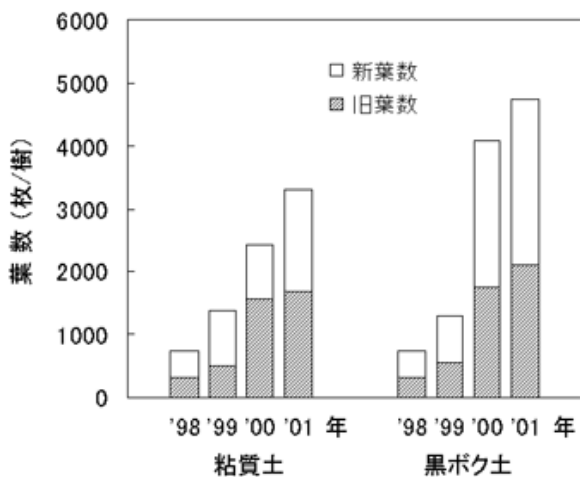


図3 粘質土と黒ボク土における「津之香」の1樹当り葉数の推移

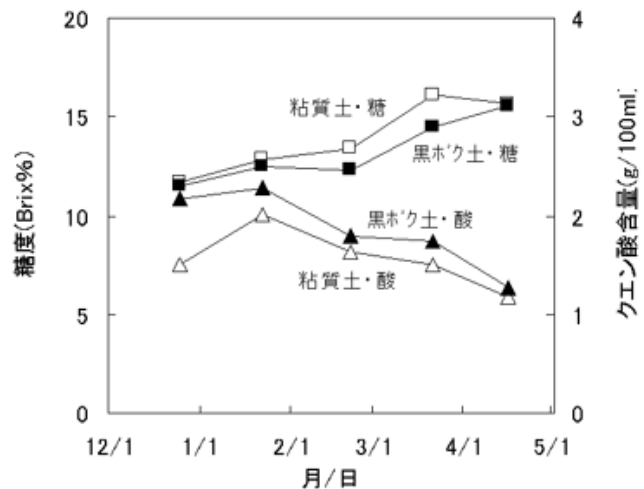


図4 粘質土及び黒ボク土における「不知火」果実の糖とクエン酸含量の推移(2000年産)

[発表及び関連文献]

平成13年度果樹試験成績

平成13年度及び平成14年度常緑果樹試験成績概要集

研究成果集2: 緊急技術開発促進事業「みかん狩りに適した新しい晩生カンキツ類の安定生産技術の確立」